

インターナショナル・スポーツ・カイト ジャッジ・ブック (日本語版)¹

Version 2.1 (2002年7月1日)

目次

インターナショナル・スポーツ・カイト ジャッジ・ブック目次	1
I. 序文 INTRODUCTION.....	3
II. 概要 GENERAL	4
A. 責任 RESPONSIBILITIES.....	4
1. ジャッジの倫理 Judges' Code of Ethics.....	4
2. 飛行技術 Flying Skills.....	5
B. 運営指針 ADMINISTRATIVE GUIDELINES.....	5
1. スタッフ Staff.....	5
2. ミーティング Meetings.....	14
C. 風待ちの手順 WIND RECESS PROCEDURE	17
D. 失格 DISQUALIFICATION.....	18
1. 概要 General.....	18
2. 凡例 Examples.....	18
III. 採点の基本 THE BASICS OF SCORING	20
A. 採点の手順 SCORING PROCESS.....	20
1. ジャッジ Judges.....	20
2. 採点の集計 Score Compilation.....	23
B. 採点要素の定義 SCORING COMPONENT DEFINITIONS.....	25
1. 複雑性 Complexity.....	25

¹ [公開年月日] 2003/09/01 [適用開始日] 2004/03/01 以降適用 [翻訳作業者] 朝倉弘道、小室雅伸、坂根秀、立間文章、溝手学、村上克己(五十音順) [翻訳に対する問合せ] E-Mail にて、comp@ajka.gr.jp へご連絡願います。

2.	連続性 Continuity.....	25
3.	コンパルソリー Compulsory.....	25
4.	コントロール Control.....	25
5.	創造性 Creativity.....	26
6.	リズム Rhythm.....	26
7.	技術的難易度 Technical Difficulty.....	26
8.	タイミング Timing.....	26
9.	ウィンド・ウィンドウの活用 Use of the Wind Window.....	26
IV.	プレジジョンの採点 SCORING PRECISION.....	27
A.	概要 GENERAL DESCRIPTION.....	27
B.	採点要素 SCORING COMPONENTS.....	27
1.	コンパルソリー（得点の60%（各々20%）） Compulsories.....	27
2.	テクニカル ルーティーン（得点の40%） Technical Routine.....	28
V.	バレエの採点 SCORING BALLET.....	29
A.	概要 GENERAL DESCRIPTION.....	29
B.	採点要素 SCORING COMPONENTS	29
1.	振付け（得点の60%） Choreography.....	29
2.	実行力（得点の40%） Execution.....	29
VI.	ペナルティの減点 SCORING PENALTIES	30
A.	バレエとテクニカルルーティーンのパナルティ PENALTIES FOR BALLET AND THE PRECISION TECHNICAL ROUTINE.....	30
1.	インプロパービギニング/エンディング Improper Beginnings and Endings.....	30
2.	偶発的な接触（ティックス）とクラッシュ Incidental Contacts(Ticks) and Crashes.....	31
B.	プレジジョンだけのペナルティ PENALTIES SPECIFIC TO PRECISION.....	33
1.	間違った図形の飛行 Flying the Wrong Figure.....	33
2.	「イン」「アウト」コールの欠落 Omission of IN/OUT Calls.....	33
3.	セットアップ タイム違反 Violation of Setup Time.....	33
4.	コンパルソリー中の偶発的な接触（ティックス）とクラッシュ Incidental Contacts(Ticks) and Crashes During Comulsory.....	34
C.	バレエ音楽の準備 BALLET MUSIC PREPARATION.....	34

I. 序文 INTRODUCTION

本書は、スポーツカイトのジャッジにおいて起きうる様々な問題点について定義づけするものです。また、本書は、ジャッジが何に注意を払い、どのように行動をするべきかについて基本的な方針を述べているのであって、決してジャッジがどのように物事を観、どのように判定すべきかを明記するものではありません。

ジャッジの皆さんはワークショップやセミナーに出席する際、本書をお持ちください。理論と実践は常に一体でなければならない。

気持ち良く競技を進行できるように、オフィシャル（競技役員）はしかるべきレベルの理解力と行動力を持つべきです。本書は、より明解になるよう簡略にした項目もあるし、多くの革新的な変更も加えています。しかしながら、このスポーツをより楽しく、わくわくしたのものとして存続させ、新しい競技者を増やし、多くの人々にサポーターとなって戴くためには、さらなる改良を重ねていかなければなりません。そのために国際ルールブック委員会（IRBC）は、皆様からの御意見を電話、手紙またはEメールで常に求めています。AJSKA AKAあるいはSTACKのメンバーであるなら、皆様が所属している団体の役員がお受けします。

最新版はIRBCの公式サイト<http://www.kitelife.com/irbc>、またはAJSKAのホームページで手に入れることができます。

注記：公式サイトは現在、<http://www.kitehost.net/IRBC/>に変更されています。

スポーツカイトルールの発展のために長年にわたって尽力くださった、いまや名を挙げるにはあまりにも大勢の皆様、IRBCは慎んで感謝を捧げます。

国際ルールブック委員会(IRBC)メンバー（2002年7月現在）

AJSKA	AKA	STACK
立間 文章	David Hansen	Helmut Georgi
島田 浩一	Mike Gillard	Peter Fieldler

II. 概要 GENERAL

A. 責任 Responsibilities

1. ジャッジの倫理 Judges' Code of Ethics

ここでは、競技者がジャッジに求めうる権利とジャッジが対応すべきことの基本的な事項について述べている。しかし、判定は主観的なものであるから、各々のジャッジには各々違う見方があるということを常に心に留めておかなければならない。

a) 正直であること Integrity

ジャッジは、競技者のあらゆる演技・振舞に対し細心の注意力を注ぎ、ジャッジとしての能力を最大限発揮して正しく採点しなければならない。また、競技者との、あるいは使用されている用具メーカーや販売店との個人的・仕事上の関係は一切無視しなければならない。

b) 客観的であること Objectivity

競技者の音楽、カイトの種類、レベル、年齢、性別などに対する個人的な好みは一切排除して客観的に評価すること。

c) 偏見を持たないこと Open-Mindedness

観たままを評価する。自分が観たいもので評価しない。

d) 異義申し立て Criticisms

競技者から意見を求められたときは、いつでも建設的で正直な態度で答えること。

2. 飛行技術 Flying Skills

ジャッジは、必ずしも競技者または元競技者である必要はない。しかし、スポーツカイトのフライト技術に関するあらゆる側面について正確に理解し、常に最新の情報を身につけていなければならない。

B. 運営指針 Administrative Guidelines

1. スタッフ Staff

a) スタッフ構成 Members of the Staff

(1) チーフ ジャッジ Chief Judge

競技会には一人のチーフ ジャッジを置く。チーフ ジャッジは競技種目のジャッジを兼任してもよい。チーフ ジャッジはその競技会において競技者として出場はできない。競技者が規定された抗議手続きの段階を全て踏むことができるようにする為、チーフ ジャッジがヘッド ジャッジを兼任することは好ましくない。

チーフジャッジの責務は下記の事項である

- スタッフの配置及び運営管理
- 競技会のお知らせの編集、郵送、得点の発表の管理。
- プレシジョン種目のコンパルソリー フィギュア (規定図形) を3つ決める。可能であれば、他のジャッジ、特にプレシジョン種目のヘッド ジャッジと協議して決定する。

- 競技会の最初と最後にミーティングを行う。
- インターナショナル スポーツ カイト コンペティション ルールに従い、抗議について裁定する。
- 各競技種目のフライトオーダーを準備する。
- 公認の規定条件に合致していない場合、認可機関または認可機関が委任した機関に対して、公認の取り消しを勧告する。

注記：例えば、その大会が AJSKA の公認大会ならば認可機関とは AJSKA を指す。

- 競技会の開始時間・終了時間を決定する。
- 競技会の終了後、レポートを作成する。その内容は、ささいな問題から失格 (DQ) 処置、抗議・苦情の内容とその処理、講評会での競技者やスタッフからの意見、また今後の競技会に向けてのチーフ ジャッジからの提言などを網羅する。
- そのレポートは、競技会終了後 15 日以内に競技会の認可機関とスーパーバイザリコミッティに提出する。また、失格判定や競技者からの抗議事項に関与したヘッド ジャッジにも提出する。
- 競技会終了後 15 日以内にその競技会の認可機関に全ての競技種目の採点結果を報告する。

(2) ヘッド ジャッジ Head Judge

各々の競技種目には一人のヘッド ジャッジを置く。

ヘッド ジャッジの責務は下記の事項である。

- その競技種目に関する説明会を行う。

- その競技種目のジャッジを行う。
- ジャッジ・スタッフに手続き等に付いて指示する。
- インターナショナル スポーツ カイト コンペティション ルールに従い、抗議について裁定する。
- 種目毎の講評会を要求されたとき、または設定されているときは開催する。

(3) ジャッジ Discipline Judges

ヘッド ジャッジに加えて最低 2 人のジャッジを置く(即ち、合計 3 人)。国際競技会においてはヘッド ジャッジに加えて 4 人のジャッジを置く。どの競技会においても出来る限り 4 人のジャッジを置くことが望ましい。

(4) フィールド ディレクター Field Director

フィールド ディレクターはその種目の競技進行に関する全ての権限と責任を負うものである。フィールド ディレクターは以下の責務を負う。

(a) 一般事項 General

- バレーの音源を集める。
- 競技を公正にそして時間通りに運営する。
- 競技者にインターナショナル スポーツ カイト コンペティション ルールに記されているルールとガイドラインを守らせる。
- 競技者に適切な人数のラウンチ クルーを与える。

- 競技者が演技を開始した後に、ラウンチクルーがフィールド内に新たな用具を持ち込んでいないか、チェックする。
- フィールド外からコーチするものがないようにする。
- スポーツマンらしからぬ品行があった場合、適切な処置をとる。
- 風速を計り、ウィンド ルールを実施する。

(b) **安全性** Safety

- あらゆる注意・警告事項を競技者に知らせる。
- セーフティ ルールを侵害した場合、その種目において失格にする。
- ライン ジャッジを適切な位置に配備する。
- 競技者と後方の境界線との距離を監視する。（その部分を監視できるラインジャッジがない場合）
- 競技者に、後方の境界線に近づいたことを知らせる。
- フィールド上に関係者以外の人がないか、また空中に障害物がないか、監視する。
- 安全性に問題がある場合、適切な処置をする。

(c) **時間計測** Timing

- 競技者にセットアップ タイムを守らせる。
- 競技者の演技時間を計測する。
- 競技者の要求があればタイム コール(時間を知らせる)をする。
- 競技者が最大制限時間に達したことをジャッジに知らせる。
- 競技者が最小制限時間に達しなかったことをジャッジに知らせる。
- 45 秒ルールに基づいて落下時間と経過時間を計測する。また、45 秒まであとどのくらい残っているのかを競技者に知らせる。

(d) **調整** Coordination

- 競技者にフィールド入場の合図を送る。
- 競技者をフィールドに迎える。
- 競技者の技術レベルに応じて適切な演技場所を指示する。
- 特別な情報があれば競技者に伝える。
- ジャッジの用意ができたことを競技者に伝える
- 要求があれば競技者(個人またはペア、チームのリーダー)にコンパイルソリー図形を見せる。
- 「イン」「アウト」のかけ声がかかったことをジャッジ パネル(審判団)に示す。
- PA に音楽の開始を指示する。

- ライン ジャッジの動きを監視する。
- ピット ボスと連絡を取り合う。
- 演技が終わったならば次の競技者が出来る限り早くフィールドに入れるようにする。
- 風の中断など競技に影響を与える事が起きたとき、チーフ ジャッジ、ヘッド ジャッジやその他の役員と連絡を取り合う。
- 競技者から求められた場合、ラウンチ クルーを手配する。

様々な理由でフィールド ディレクターは上記の責務を果たすことができない場合があるかもしれない。しかし、だからといって、競技者がルールあるいはガイドラインの規定を免れることはできない。例えば、競技者が境界線に接近した時あるいはイエローフラッグを上げられた時に、そのことをフィールドディレクターが競技者に知らせ無かったとしても、競技者の体もしくはカイトが境界線を越えてしまったならば失格となる。

(5) ピット ボス Pit Boss

「競技種目の参加競技者数と技術レベルによっては、必要に応じてピット ボスを置く」とルールは定めている。ピット ボスはフィールドディレクターの指導のもと、以下の責務を負う。

- フィールド ディレクターからフィールド インの合図が出るまで、競技者をステージ イン エリアで待機させ、演技開始の準備をさせておく。
- 速やかにステージ イン/ステージ アウト エリアから全ての用具を競技者に撤去させる。

- できる限りステージイン/ステージアウトエリアは何も無い状態にしておく。(用具を置きっぱなしにしない、誰もそこにいないようにする。)
- 常にフィールド内には関係者以外を入れないようにし、フィールド上空には障害物がないようにする。
- 安全上の問題が起きた時はフィールドディレクターに警告すること。
- 競技説明会(競技会開始前のパイロットミーティング)において決定した方法に従い、必要があれば他の競技者の中からラウンチ クルーを指名する。

(6) ライン ジャッジ Line Judges

二人のライン ジャッジを置くこと。ライン ジャッジはフィールドディレクターの指導のもと、以下の責務を負う。

- 境界線を監視する。競技者のカイトが境界線を越えた場合、フィールド ディレクターに報告する。通常、内側境界線を越えた場合にはイエローフラッグ、外側境界線を越えた場合にはレッドフラッグを合図として上げる。

- 演技の最中に競技者の体が境界線を超した場合、フィールドディレクターに報告する。通常、内側境界線を超した場合にはイエローフラッグ、外側境界線を超した場合にはレッドフラッグを合図として上げる。
- フィールド上に関係者以外を入れないようにし、フィールド上空に障害物がないようにする。
- 安全性に問題があればフィールドディレクターに警告する。

(7) 得点係 Scorers

得点係はチーフ ジャッジの指導のもと、以下の責務を負う。

- スコアシートが読みやすく完璧であるか確認する。
- ジャッジのスコアシートを集計する。
- 最終得点から差し引くペナルティを確認し、減点する。

注記： -A-2-c 最終得点からの減点 に示す3つの違反がある場合。

- 各競技種目の順位を決める。
- チーフ ジャッジの指示のもと、得点を公表する。

b) **スタッフの交代** Changes in Staff

できうる限り、一つの競技種目を通して同じスタッフが担うこと。しかし、交代をしなければならない場合、以下の事項を守ること。

- ジャッジが競技の途中で抜ける場合、そのジャッジのスコアは全て抹消される。そのジャッジがヘッド ジャッジである場合は、残りのジャッジの中からヘッド ジャッジを指名する。
- ジャッジが抜けた場合、最低三人のジャッジが残っていること。ジャッジが抜けたことによって審判団が三人に満たない場合は、その競技は無効とし、新たに審判団を揃えて再開する。
- フィールド ディレクター、ライン ジャッジ、ピット ボスは必要に応じて交代してもよい。

2. ミーティング Meetings

ミーティングに出席することを推奨する。認可機関、イベント主催者、チーフ ジャッジはミーティングへの出席を必須条件 (mandatory)にする事ができる。 その場合、最低 30 日前にはその旨を競技者に知らせること。

注記： 必須条件 (mandatory) とは -D-2 -c に示すように、失格事項に決めることもできる。

a) 説明会 Briefings

(1) 競技説明会 (パイロットミーティング) (進行:チーフジャッジ) Competition Briefings

競技説明会では、チーフジャッジは最低限以下の事項を説明する。

- 事前公表のスケジュールからの変更点の説明。
- 安全性の重要性を強調する。
- 競技フィールド、練習フィールド及びその他の制限区域を説明する。
- ステージイン、ステージアウト (入場、退場) の手順を説明する。
- 適宜、公認スタッフ及び参列者の紹介をする。
- スケジュールに混乱が生じたときの調整の手順を説明する。
- スーパーバイザリコミッティの競技者代表の選出を監督する。

る。また、ジャッジ代表が選出されていることを確認する。

- ラウンチ クルーの選出方法を決定する。
- 競技会に関するその他の事柄について話し合う。
- 異義申し立ての方法を確認する。
- 講評会(競技終了後)への出席を伝える。
- 競技者からアナウンス用の自己紹介・経歴書を集める。(依頼があれば)
- 競技者の質問に答える。
- 競技会開催の間、競技者の質問を受付けるスタッフを決める。また、連絡等の告示を貼り出す場所を示す。

(2) **競技種目説明会 (プレフライトミーティング) (進行:ヘッド ジャッジ) Discipline Briefing**

競技種目説明会では、ヘッド ジャッジは最低限以下の事項を説明する。

- ジャッジ、フィールドディレクター、ラインジャッジピットボスを紹介する。
- 点呼をし、フライトオーダーを発表する。
- バレー種目の音源をフィールドディレクターに集めさせる。
- ラインジャッジの位置の確認。
- ステージイン、アウトの手順の確認。
- ラウンチ クルーの割り振り方法の確認。
- プレシジョン種目のコンパルソリー (規定図形) の発表とそ

の確認。

- 競技者からアナウンス用の自己紹介・経歴書を集める。(依頼があれば)

b) **講評会** Debriefings

(1) **競技講評会 (ディブリーフィング) (進行: チーフ ジャッジ)**

Competition Debriefing

競技会終了後ただちにチーフジャッジは講評会を開く。ただし、競技会主催者あるいはチーフ ジャッジの判断によるが、表彰式・結果発表の後に行うべきである。講評会は、この先開催する競技会をより良いものとするための、競技者に意見交換を求める場である。また、オフィシャル、特にチーフ ジャッジとヘッド ジャッジから競技会全体について、及び各種目についての意見を述べる場でもある。チーフ ジャッジは講評会で話題にのぼったこと全てをレポートに書くこと。

一つ以上の認可機関が公認した国際競技会の場合、レポートはインターナショナル ルール ブック委員会(IRBC)に送付すること。

正式の講評会が終わった後に、競技者は自分の採点を行ったジャッジ達と演技内容について話し合う機会を持つべきである。それにより、競技者は演技を磨くのに有益な意見・感想を得る事ができる。

(2) 競技種目講評会(進行:ヘッド ジャッジ) Discipline Debriefing

競技者またはオフィシャルから要望があれば、ヘッド ジャッジはその種目の講評会を開くこと。その目的は以下の通りである。

- 競技中に起きた事柄についての説明。例えば、風待ちの中断、失格など。
- 演技内容について競技者からの質問に答える。
- 競技者に、ジャッジやオフィシャルから建設的な批評やアドバイスを述べる。
- どうすればさらに良い競技会になるのか、どこを簡潔化すればよいのか、意見を出してもらう。

C. 風待ちの手順 Wind Recess Procedure

風待ちの中断となった場合は、ヘッド ジャッジは風の状態が規定の範囲になるまで待ち、風待ちの中断が宣言された時点での飛行順から続行する。

適切な時間内に風の状態が改善しない場合、ヘッド ジャッジはチーフ ジャッジ及び必要ならばスーパーバイザリコミッティとも相談し、方針を決める。その決定はインターナショナル スポーツ カイト競技会ルールのガイドラインに従う。決定後、オフィシャルは、全ての競技者が公正に扱われるよう最善を尽くすこと。

D. 失格 Disqualification

1. 概要 General

オフィシャルが競技者を失格にした場合、そのオフィシャルは競技者に渡す報告書を作り、そのコピーを認可機関に送付しなければならない。失格になった競技者がオフィシャルの決定を不服とする場合、そのオフィシャルは、報告書を作成して競技者に渡し、そのコピーを認可機関に送付しなければならない。

失格は、その失格を受けた競技者種別（個人、ペア、チーム）のみに適応する。例えば、チームが失格となった場合でも、そのチームのメンバーはそれぞれ個人競技に参加できる。

失格となった競技者はただちにフィールドを出ること。いかなる抗議も議論もその競技種目の終了後に行うこと。

2. 凡例 Examples

違反があった場合、オフィシャルはただちにルールの違反規定に基づいて決断をしなければならない。

a) スポーツマンらしからぬ振舞 Exhibiting Un-sportsmanlike Conduct

スポーツマンらしからぬ振舞をした競技者はその種目を失格となる。違反を繰り返し、暴力的かつ危険な行動をする者はその競技会を失格となる。

b) **演技中に他者からアドバイスを受ける**

Receiving Advice on the Competition Field during a Discipline

演技中にフィールド上でフィールド ディレクター以外の者からアドバイスを受けた競技者は、その種目の最終得点から得点係が 10 点減点する。

アドバイスを行う、やじることはスポーツマンシップに反する行為とみなされる。繰り返し行う場合、また深刻な妨害行為はその種目を失格になる。

c) **義務付けられた説明会を欠席した場合**

Failing to Attend a Mandatory Competition or Discipline Briefing

出席を義務付けられた説明会に参加しなかった場合のペナルティは認可機関が決定し、認可機関の判断でペナルティを適用する。

d) **演技開始後にフィールド内に用具を持ち込んだ場合**

Bringing Equipment inside the Boundary after the Competitor Has Started

演技開始後にフィールド内に持ち込まれた用具を使用した競技者は、その種目を失格になる。

III. 採点の基本 THE BASICS OF SCORING

ジャッジは定義された採点項目毎に 0 から 100 までの点数（整数）をつける。この点数でその競技種目の順位を決める。

採点は競技者の技術レベル〔クラス〕は考慮せずに、演技内容そのものに対して評価を行う。そうすることにより、得点を比較することでクラス分けに関係なく全競技者の実力を比較することが可能になる。

注記： 採点は相対評価ではなく、絶対評価をする。個々の大会における順位は相対的なものだが点数はその競技者の実力を示す指標になるべき、との方針。すなわち、点数を見ることで海外のフライヤーなどとの力量を居ながらにして比べることが可能になる。

A. 採点の手順 Scoring Process

1. ジャッジ Judges

a) 位置 Position

通常、ジャッジは競技者及びフィールドディレクターの妨げにならない、競技者の後方に位置する。すなわち、競技者の動きに合わせてジャッジは移動しなければならない。

b) コンディション Conditions

ジャッジの採点は不安定な風や天候の悪条件を反映してはならない。例えば、悪天候だからといって採点があまくなることはない。つまり、ジャッジは観たものだけをそのまま採点するのであり、なにものにも左右されない。

c) 書類 Documents

ヘッド ジャッジは、最新版のインターナショナル ルール ブック及び
認可機関が作成した附則（追加要綱など）類を持ってフィールドに行く
こと。

採点表には最低限下記の項目を入れる。

- 競技会名
- 開催年月日
- 競技種目
- ヒート(予選) (必要な場合)
- クラス
- ジャッジの名前(もしあれば登録番号)
- 競技者の飛行順
- 競技者の名前と登録番号
- 種目毎の採点要素の得点(素点)記入欄
- 偶発的な接触のペナルティ
- インプロパーエンディングのペナルティ
- リラUNCH出来なかったクラッシュが最小制限時間の前か後か
- その他のペナルティ
- 備考欄

2. 採点の集計 Score Compilation

a) 手順の概要 General Procedure

ジャッジは採点とコメントをスコアシートに記入する。最終得点から減点するペナルティを除いたペナルティに対する減点はジャッジが決定し、スコアシートにそれを明記し、それぞれの採点要素欄に減点した点数を記入する。得点係がジャッジのスコアシートを集め、集計し、順位を決める。

b) 個々の得点の集計 Calculating the Individual Scores

ジャッジの採点は、採点要素毎に集計して平均点を算出し、「IV.プレシジョンの採点」、「V.バレーの採点」に基づいて定められた配分比率を掛けた点数を合計したものを最終得点とする。全てのデータと計算は、二回のチェックを行うこと。

c) 最終得点からの減点 Deductions From Final Score

いくつかの違反は、総得点あるいは採点要素の最終得点から減点する。ジャッジはその違反内容を明確にスコアシートに書き示す。それに対してペナルティを課す場合は、まず通常通りに得点を計算し、そこから得点係がペナルティの減点分を差し引き、最終得点を計算する。最終得点から複数のペナルティ減点もありえる。

違反	減点
フィールド上で助言を受けた	最終得点から 10 点減点
最小制限時間後のクラッシュで、45 秒以内にリラUNCHできなかった場合	バレーは最終得点から 20 点減点 プレジジョンは最終得点から 8 点減点
音源の名前の付け忘れ 頭出しの忘れ	最終得点から 10 点減点

d) **種目の総合得点** Combining Scores across Disciplines

クラス毎のランキングを出すには、クラス内の各種目の得点を補正点数に置き換える。その手順は、各々の種目における 1 位の得点が 100 になる係数を算出し、その係数を他の競技者の得点に掛け合わせて求める。すなわち、係数 = $100 \div 1$ 位の得点である。

例えば、トップの得点が 50 だとすると (係数 = $100 \div 50 = 2$) 2 位以下の得点は 2 でかけ算するので、それぞれ 2 倍となる。補正点数を用いることで競技種目間の評価に一貫性がでる。そのクラスの最終総合得点を出すには、各種目の補正点数を合計し種目数で割算する。

注記：上記の通り、バレーとプレジジョンの重み付けは無くなった。(比率は同じである)

e) **得点の発表** Publishing Scores

競技種目あるいはクラスの成績発表は、競技者名と得点を併記する。ジャッジの名前を出すかどうかは認可機関が決定する。国際競技会ではジャッジの名前は発表する。

競技終了後の競技種目講評会では、競技者は各々のジャッジと自分の得点と演技について話し合うことができる。

B. 採点要素の定義 Scoring Component Definitions

ここでは、評価に用いるいくつかのキーワードを定義し、採点要素 (Scoring Component) をどのように採点するのかを説明する。

1. 複雑性 Complexity

複雑性とは、どれぐらいたくさんの種類の要素を取り入れているか、それらの要素をどのようにつなぎ合わせているか、どのように変化させているか、等のことをいう。一般的に、失敗の危険性が高い程、また最大制限時間ぎりぎりに近い程、そのルーティーンの複雑性が高いとみなされる。

2. 連続性 Continuity

連続性とは、ルーティーンの各々の要素が互いに流れるようにつながり、一つの完成体として連続していることをいう。

3. コンパルソリー Compulsory

コンパルソリーとは、プレジジョン種目における規定図形をいう。インターナショナル スポーツ カイト コンパルソリー ブックにそれらの図形と説明が記されている。

4. コントロール Control

コントロールとは、競技者の思いの通りにカイトを飛ばす技術をいう。直進、後退、水平移動の技術力、スピード コントロール、あるいはストールやアクセルの技術力、それらカイト操作技術の正

確さを含む。マルチライン種目では、マルチラインの飛行特性をコントロールする技術を表現すべきである。

5. **創造性** Creativity

創作力が演技にみられるかどうか。

6. **リズム** Rhythm

いろいろな動き、スピードの変化、静止、などを繰り返し、交互に行うことによってカイトの動きに躍動感や変化を付けること。

7. **技術的難易度** Technical Difficulty

技術的により難しく、大胆なカイト操作を取り入れているか。

注意：チーム競技において、メンバーの多さを自動的に技術的難易度に反映はしない。

8. **タイミング** Timing

タイミングとは、マニューバー（操作）とマニューバーの間隔をいう。個人競技においては調和の取れたきれいな間隔でカイトがターンしているか、ペアまたはチーム競技においては、カイトの動きがきっちり揃っているか、あるいは一定の間隔で次々とカイトがターンしているか、などのことをいう。

9. **ウィンド ウィンドーの活用** Use of the Wind Window

カイトが飛行出来る範囲をより広くいっばいに活用して演技しているか。

IV. プレシジョンの採点 SCORING PRECISION

A. 概要 General Description

プレシジョン種目は 3 つのコンパルソリー（規定図形）とテクニカル ルーティーンから成る。そして、テクニカル ルーティーンの採点要素は、実行力（EXECUTION）と構成力（CONTENT）に分けられる。

B. 採点要素 Scoring Components

コンパルソリーとテクニカル ルーティーンの配分割合は下記による。

1. コンパルソリー（各々20% = プレシジョン得点の 60%） Compulsories (each 20% of precision score)

- コンパルソリー図に記載された「重大要素 CRITICAL COMPONENTS」は採点の大きな比重を占める。
- コンパルソリー図及び説明内容の通りにフライトしているか比較する。
- コンパルソリーブックで定義している「A. グリッド上の位置」「B. 図形の調和」「L. スピードコントロール」など図形に関する事項に注目して評価する。

注記：コンパルソリーブックの .用語解説 に詳しい内容が書かれているので参照のこと。

2. テクニカル ルーティーン (プレジジョン得点の 40 %) Technical Routine(40 % of Precision Score)

a) 実行力 Execution (テクニカル ルーティーンの 75 %、プレジジョン得点の 30 %)

- コントロール、複雑性、独創性、ウィンド ウィンドーの活用を評価する。
- 大胆な操作と技の質を評価する。
- マルチライン種目では、マルチラインカイトの飛行特性を効果的に表現しているかを評価する。
- ペアとチーム競技では、タイミングとカイトのスペーシングを重要視する。

b) 構成力 Content (テクニカル ルーティーンの 25 %、プレジジョン得点の 10 %)

- 複雑性、独創性、リズム、創造性、連続性を評価する。
- 大胆なマヌーバ(操作)やトリック技が盛り込まれているか評価する。

V. バレーの採点 SCORING BALLET

A. 概要 General Description

バレー種目は、競技者が選択した音楽に合わせて行う自由演技である。

B. 採点要素 Scoring Components

1. 振付け Choreography (バレー得点の60%)

- 音楽をいかに理解し表現しているか、が重要なポイントである。
- 連続性、創造性、複雑性 リズムを評価する。

2. 実行力 Execution (バレー得点の40%)

- 「コントロール」「ウィンド ウィンドーの活用」「技術的難易度」「リズム」を評価する。
- ペアとチーム競技では、「タイミング」と「スペーシング」を評価する。

注記：「スペーシング」はコンパルソリー ブックの .用語解説 の M. を参照のこと。

VI. ペナルティの減点 SCORING PENALTIES

A. バレーとテクニカル ルーティーンのパナルティ Penalties for Ballet and the Precision Technical Routine

ここでは、いくつかの採点要素に対する強制減点及び任意減点について定義する。

1. インプロパービギニング/エンディング Improper Beginnings and Endings

下記 a) b) c) のペナルティは、審判団が満場一致で決定した場合のみ適応される。

a) セットアップ タイム違反 Violation of Setup Times

競技者が定められたセットアップ タイム以内に演技を開始せず、フィールド ディレクターが「イン」のかけ声を掛け強制的にスタートさせた場合、バレーの振付けの得点から 10 点減点、プレジジョンにおいてはテクニカル ルーティーンの構成力の得点から 10 点減点する。

b) 制限時間の違反 Violation of Discipline Time Frames

(1) 最小制限時間より短かった場合 Less than Minimum Time

演技時間が定められた制限時間に満たなかった場合、演技は行わなかったものとみなし、得点はゼロとする。

(2) 最大制限時間を越えた場合 More than Maximum Time

演技が制限時間を越えた場合、制限時間外の演技はなかったものとして、制限時間内の演技だけを対象にジャッジは採点す

る。加えて、バレーの振付けの得点から 10 点減点、またはプレシジョンのテクニカル ルーティーンの構成力の得点から 10 点減点とする。

- c) **はっきりしない「始まり」または「終わり」** Lack of Conceptual Beginning or Ending

テクニカル ルーティーンとバレーの演技は、「始まり」、「中間」、「終わり」という三つの構成で成り立つべきものである。演技の「始まり」または「終わり」がきちりと明瞭に演技されなかった場合、バレーは振付けの得点から 10 点減点、プレシジョンのテクニカル ルーティーンでは構成力の得点から 10 点減点とする。

2. **偶発的な接触（ティックス）とクラッシュ** Incidental Contacts (Ticks) and Crashes

- a) **偶発的な接触（ティックス）** Incidental Contacts (Ticks)

ティックスとは、瞬間的にカイトが地面、他のカイト、または他のカイトのラインに接触したことをいう。ティックスに対するペナルティは以下の通りである。

強制減点	1 回につき、バレーあるいはプレシジョンのテクニカル ルーティーンの実行力から 2 点減点
任意減点	1 回につきバレーでは振付け、プレシジョンのテクニカル ルーティーンでは構成力から 1～10 点の範囲で減点

ヘッド ジャッジは、ジャッジパネルから違反回数の報告をまとめ、平均値をティックスの回数とする。この回数により強制減点数が決定するが、さらにジャッジはそれぞれの判断で、個々のティックスに対する

任意減点数を決定する。

b) **クラッシュ Crashes**

ここでは、本書やルールブックで定義しているクラッシュについて追加説明をする。クラッシュとは、カイトが地面、他のカイト、または他のカイトのラインに接触し、そして競技者がカイトコントロール不能に陥った、とジャッジが判断した時をいう。

(1) **クラッシュ後 45 秒以内のリラUNCH** Crash with Re-launch within 45 Seconds

強制減点	1回につきバレーおよびプレジジョンのテクニカル ルーティーンの実行力から 10 点減点
任意減点	1回につきバレーの振付けまたはプリシジョンの構成力から 1 ~ 20 点の範囲で減点

ヘッド ジャッジは、審判団から違反回数の報告をまとめ平均値をティックスの回数とする。この回数により強制減点数が決定するが、さらにジャッジはそれぞれの判断で、個々のティックスに対する任意減点数を決定する。

(2) **クラッシュ後 45 秒以内にリラUNCHできなかった場合** Crash without Re-launch within 45 Seconds

最小制限時間経過前	バレー演技またはテクニカル ルーティーンは演じなかったとされ得点はゼロ。
-----------	--------------------------------------

最小制限時間経過後	ジャッジはクラッシュ前までを採点する。バレーの場合は総得点から、プレジジョンではテクニカル ルーティーン の最終得点から、採点係が 20 点減点。
-----------	---------------------------------------------------------------------------

注意：プレジジョン総得点の40%がテクニカル ルーティーンなので、減点も40%(20点の40%は8点)となる。要するに20点の減点はテクニカル ルーティーンのみ適用し、コンパルソリーには適用されない。

B. プレジジョンだけのペナルティ Penalties Specific to Precision

1. 間違ったフィギュアの飛行 Flying the Wrong Figure

指示された図形と異なる飛行をした場合、ジャッジはそのコンパルソリーの得点をゼロとする。競技者から事前に進入方向を逆から行う、と報告せずに図形の指示とは逆の方向からコンパルソリーを開始したときもゼロとする。

2. 「イン」「アウト」コールの欠落 Omission of IN/OUT Calls

テクニカル ルーティーンあるいはコンパルソリーにおいて競技者が「イン」あるいは「アウト」コールをしなかった場合、その要素はゼロと採点する。

注記：コンパルソリーのうちの一つでこの違反があった場合、そのコンパルソリーに対してのみゼロであり、他の2つに対しては採点される。

3. セットアップ タイムの違反 Violation of Setup Time

コンパルソリーにおいて、競技者が規定のセットアップ タイム

内で演技開始できなかった場合、その図形に対してはゼロとする。
その次のプレシジョンの要素（コンパルソリーまたはテクニカル
ルーティーン）に対するセットアップ タイムの計測は直ちに開始
する。

4. **コンパルソリー中の偶発的な接触（ティックス）とクラッシュ**
Incidental Contacts (Ticks) and Crashes During Compulsory

a) **ティックス** Incidental Contacts (Ticks)

偶発的な地面、他のカイト、または他のカイトのラインとの接触は1回
につき10点の減点。

b) **クラッシュ** Crash

コンパルソリー（規定）の際のクラッシュはゼロとなる。

C. **バレ音楽の準備** Ballet Music Preparation

きちんと音楽の頭出しができていない、または音源に名前を記載してい
ないとヘッドジャッジが判断した場合、全てのジャッジに音楽のペナルティとし
てスコア シートに明記させ、得点係がバレの最終得点から10点減点す
る。

添付 A: スコア シートのサンプル Appendix A : Sample Score Sheets

バレエ Ballet

大会名 _____ 場所 _____ 年月日 _____

種目名	ジャッジ名・登録番号
	競技者名・登録番号

振付け Choreography (60%) 0-100 点	連続性 Continuity	低・普・高	備考	スコア
	創造性 Creativity	低・普・高		
	複雑性 Complexity	低・普・高		
	音楽の解釈 Interpretation	低・普・高		
	リズム Rhythm	低・普・高		
実行力 Execution (40%) 0-100 点	コントロール Control	低・普・高	備考	スコア
	ウィンド ウィンドーの活用 Use of Wind Window	低・普・高		
	技術的難度 Technical Difficulty	低・普・高		
	リズム Rhythm	低・普・高		
	ペア/チームのタイミング Pairs/Teams : Timing	低・普・高		
	ペア/チームのスペーシング Pairs/Teams : Spacing	低・普・高		
ジャッジの ペナルティ	ティックスの回数： _____ 回		リラUNCHできたクラッシュの回数： _____ 回	
	最小制限時間経過前にリラUNCHできなかったクラッシュが： 有る ・ 無い			
最終得点に 対する ペナルティ	競技中の助言 が： 有る ・ 無い	音源名無し/頭出し忘れが：		最小制限時間経過後でリラUNCH できなかったクラッシュが： 有る ・ 無い
		有る ・ 無い		

このペナルティはジャッジではなく得点係が最終得点から減点する。

プレジジョン Precision

大会名 _____ 場所 _____ 年月日 _____

競技種目名	ジャッジ名・登録番号		
	競技者名・登録番号		
コンパルソリー Compulsories (全体60%、各規定図形20%)			
形、大きさ、 キレ、スピード コントロール 0-100点	図形 1	図形 2	図形 3
	備考	備考	備考
	スコア	スコア	スコア
テクニカル ルーティーン Technical Routine (40%)			
実行力 Execution (75%) 0-100点	コントロール Control	低・普・高	備考
	ウィンド ウィンドーの活用 Use of Wind Window	低・普・高	
	技術的難度 Technical Difficulty	低・普・高	
	トリック Tricks	低・普・高	
	マルチラインの特性の表現 Multi-Line: Multi-Line Effect	低・普・高	
	ペア/チームのタイミング Pairs/Teams : Timing	低・普・高	
	ペア/チームのスペーシング Pairs/Teams : Spacing	低・普・高	スコア
構成力 Content (25%) 0-100点	複雑性 Complexity	低・普・高	備考
	創造性 Creativity	低・普・高	
	連続性 Continuity	低・普・高	
ジャッジの ペナルティ	ティックスの回数： _____ 回	リラUNCHできたクラッシュの回数： _____ 回	
	最小制限時間経過前にリラUNCHできなかったクラッシュが： 有る ・ 無い		
最終得点に対す るペナルティ	競技中の助言が： 有る ・ 無い		最小制限時間経過後でリラUNCHできな かったクラッシュが： 有る ・ 無い

このペナルティはジャッジではなく得点係が最終得点から減点する。

添付 B: 参照リスト Appendix B: Field References

フィールドディレクター用参照リスト Field Director Field Reference

ISK ジャッジブックより

参照項目	ジャッジが判断するペナルティの内容
.A.1.a)	セットアップタイム違反
.A.1.a)	次のコンパルソリーあるいはテクニカルルーティーンの開始が遅れた
.A.1.b) (1)	バレーあるいはテクニカルルーティーンが最小制限時間に満たない
.A.1.b) (2)	バレーあるいはテクニカルルーティーンが最大制限時間を越えた
.D.2.b)	演技中に助言を受けた
.D.2.d)	演技開始後にフィールドに持ち込まれた用具を使った
.A.2.b) (2)	4.5秒以内にリラウンドできなかったクラッシュが最小時間経過前か/後か失格になりうる安全違反の種類

ISK ルールブックより

参照項目	時間制限	個人	ペア	チーム
.G.	競技開始のセットアップ	3分	4分	5分
.G.	次のコンパルソリーまでのセットアップ	45秒	45秒	45秒
.G.	テクニカルルーティーン開始までのセットアップ	90秒	90秒	90秒
.I.2.C)	テクニカルルーティーンの演技時間(最小~最大)	1~3分	2~5分	2~5分
.H.1.	バレーの演技時間(最小~最大)	2~4分	2~5分	2~5分
.K.	クラッシュ後のリラウンドまでの制限時間	45秒	45秒	45秒

フィールドディレクターが演技開始の許可を与えてから1.5秒以内に演技を開始しなければならない、ということば決して無い。

ISK ルールブックより

参照項目	風速規定	個人	ペア	チーム
.J.2.	ウィンドチェックコールを受付ける時間(各種目の最小制限時間まで)	バレーは開始から2分以内 テクニカルルーティーンは開始から1分以内	バレー、テクニカルルーティーン共、開始から2分以内	バレー、テクニカルルーティーン共、開始から2分以内
.J.1.	風速の測定: 10秒間計測し、平均値を読む	ノービス	2.0~8.3m/s (44~18.6mph)	
		ノービス以外	1.1~12.5m/s (25~28.0mph)	

ISK ルールブックより

参照項目	Ref.	ラウンドクルー	個人	ペア	チーム
.Q.		最大人数	2名	2名	チームメンバー数

ジャッジ用参照リスト Judges' Field Reference

ISK ジャッジ ブック より 但し(CR)はルールブックより

参照項目	違反 Violation	バレエのペナルティ Penalty for Ballet	プレジジョンのペナルティ Penalty for Precision
. A. 1. a) . B. 3.	セットアップ時間までに演技を開始せず、FDがイン コールを掛けた	振付から 10 点減点 注 1	その図形は 0 点 テクニカルルーティーンの構成力から 10 点減点 注 1
(CR) . F. . B. 2.	バレエ、コンパルソリー、テクニカルルーティーンでイン/アウト コールの欠落	ペナルティ無し。 音楽の開始/終了がイン/アウト コール	その図形あるいはテクニカルルーティーンは 0 点
. C.	音楽の頭出し忘れ・ラベル無し	最終得点から 10 点減点注 5	
. A. 1. b) (1)	最小制限時間不足	バレエ得点 0 点 注 1	テクニカルルーティーン得点 0 点 注 1
. A. 1. b) (2)	最大制限時間オーバー	振付から 10 点減点 注 1,4	テクニカルルーティーン構成力から 10 点減点 注 1,4
. A. 1. c)	不適切な演技の「始まり」「終わり」	振付から 10 点減点 注 1	テクニカルルーティーン構成力から 10 点減点 注 1
. B. 1	間違った図形のフライト		その図形は 0 点
. B. 4. a)	コンパルソリーでのティックス		その図形について、1 回につき 10 点減点 注 2
. B. 4. b)	コンパルソリーでのクラッシュ		その図形は 0 点
. A. 2. a)	バレエ/テクニカルルーティーンでのティックス	1 回につき実行力から 2 点減点 さらに、振付から 1 - 10 点の範囲で減点 注 2,3	1 回につき実行力から 2 点減点 さらに、構成力から 1 - 10 点の範囲で減点 注 2,3
. B. 2. b) (1)	45 秒以内にリラウチできたクラッシュ	1 回につき実行力から 10 点減点 さらに、振付から 1 - 20 点の範囲で減点 注 2,3	1 回につき実行力から 10 点減点 さらに、構成力から 1 - 20 点の範囲で減点 注 2,3
. B. 2. b) (2)	最小制限時間経過前に 45 秒以内にリラウチできなかったクラッシュ	バレエ得点 0 点	テクニカルルーティーン得点 0 点
. B. 2. b) (2)	最小制限時間経過後に 45 秒以内にリラウチできなかったクラッシュ	最終得点から 20 点減点注 4,5	最終総得点から 8 点減点 注 4,5
. D. 2. a)	スポーツマンらしからぬ振舞	失格	失格
. D. 2. b)	フィールド内で助言を受けた	最終得点から 10 点減点注 5	最終得点から 10 点減点 注 5
. D. 2. d)	演技開始後フィールド内に持ち込まれた用具の使用	失格	失格

注 1 ジャッジ パネル全員一致の採決による。

注 2 ティックスあるいはクラッシュの回数は、各ジャッジの平均値からヘッドジャッジが決定する

注 3 ジャッジは指定の範囲内で任意減点数をそれぞれ決定する。

注 4 演技時間を計測し、クラッシュ、制限時間等の違反までの演技を採点する。

注 5 ジャッジはスコアシートにペナルティの内容を記載するが、これらの減点は得点係が行う。

添付 C：抗議書のサンプル Appendix C : Sample Protest Form

抗議書 Protest Form

大会名 _____ 場所 _____ 年月日 _____

競技者名 個人名 チーム/ペア名	個人名・登録番号
	チーム/ペア名・登録番号

抗議対象の競技種目名 Discipline in or about which the protest is being filed
抗議内容に関連するルール条項 Specific rule book reference
抗議の内容 Specific protest
ジャッジ・オフィシャル等の対応内容 Action taken

添付 D: チーフジャッジ大会レポート Appendix D : Sample Chief Judge's Report

チーフジャッジ大会レポート Chief Judge's Report

大会名 Event Name						
場所 Location						
開催年月日 Date						
認可機関名 Sanctioning Authority						
チーフジャッジ名 Chief Judge						
オーガナイザー Event Organizer						
種目別参加競技者数 Number of Competitors Listed by class and discipline	種目名	人数	種目名	人数	種目名	人数
天候 Weather Conditions	天気		風速			
観客数/ 観客の反応・評判 Spectator Attendance, Notes on spectator reaction						
大会初参加者の獲得は？ Efforts to Enlist New Fliers						
大会概要 / 問題点 / 今後に向けての改善提案など General Notes on Competition, Including any difficulties and Recommendations to avoid repeating						
抗議事項 / その対処内容 List of any Protests and their Resolution						
講評会での競技者からの意見 Competitors' Suggestions at Debriefings						